

「東部中学校区6小学校 再編活性化 意見聴取会」 議事録（要点筆記）
（機殿小学校）

日時：令和6年5月28日（火）19:00～20:35

場所：機殿小学校 多目的室

出席者：

【地域住民・保護者】29人

【学校関係者】5人

【教育委員会】教育長 中田雅喜

事務局長 刀根和宜

事務局次長 金谷勝弘

教育総務課長 西浦有一

教育総務課 学校活性化推進室長 北畠和幸

教育総務課 学校活性化推進室主幹 清水尚美

教育総務課 学校活性化推進室主任 地主博一

【市議会】市野幸男 奥出かよ子 橘大介 山本芳敬（五十音順・敬称略）

挨拶：教育長

本日は、お集まりいただき、ありがとうございます。

ここに至るまで、住民自治協議会会長を始め、地域の皆様にご尽力いただき、感謝申し上げます。

本日の意見聴取会で皆様からいただいたご意見をもとに、子ども達が質の高い教育を受けることができる環境をしっかりと作っていきたいと思っています。

忌憚のないご意見を、よろしくお願いいたします。

教育委員会自己紹介

資料説明：事務局

資料『松阪市立東部中学校区6小学校 再編活性化に関わる意見聴取会』

（4ページ）

・全国的に児童生徒数が減少していることから、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」（文部科学省）が策定された。

・松阪市教育委員会では、令和2年度に検討委員会を立ち上げ、外部の委員による検討を重ね、令和5年3月に「松阪市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を策定した。

（2・3ページ）

・松阪市では、4人グループ5つで議論を深められるなどの理由から、「最低限確保したい学校規模」

を1学級20人程度とした。

・東部中学校区6小学校のうち5校が対象校であることから、東部中学校区全体で再編活性化の検討を開始した。掃水小学校は対象校ではないが、学校規模としては「小規模校」に分類される。

(4ページ)

・令和5年度は、各小学校区において、学校との関わりが深い方々から意見交換を開始した。

・住民自治協議会からの提案を受け、「東部中学校区学校活性化協議会」を設置し、各小学校区から保護者代表・住民代表・学校運営協議会代表・学校代表が集まって議論を重ねた。

・機殿では、独自で全地域住民対象のアンケートを実施していただいた。

【「積極的に統廃合すべき」「統廃合はやむを得ない」90.6%、統廃合は避けるべき5.7%】

・第3回東部中学校区学校活性化協議会において、再編活性化の方向性が確認された。

(5・6ページ)

・「6小学校を1校に統合する」という意見もあったが、最終的に「複式学級を早期に解消する」ことを最優先に、「6小学校を2校に統合する」方向で、学校活性化協議会で案を取りまとめていただいた。

・学校活性化協議会内に設置する準備部会は、地域・学校運営協議会・保護者・学校の代表者で委員を構成する。検討内容としては、校名・校歌・カリキュラム・学校運営協議会組織・学校施設・学校備品・通学路・スクールバス・学童・PTA組織などがある。

・『学校活性化協議会だより』やホームページで周知を図る。

・配慮すべき主な事項⑤「新入学児童に対する配慮」については、統合が具体的になるにつれ、要望する声をいただくようになった。今後、準備部会で協議いただきたい。

(9ページ)

・「地域総ぐるみでの教育」として、コミュニティ・スクール、探究的な学習、小中連携教育を3本柱として取り組む。

・コミュニティ・スクールについては、中学校区で連携・協働できる組織を構築する。今後は、クラブ活動の地域移行やPTA組織についてなども、学校運営協議会で検討をしていくことが考えられる。

・校区が広がることを利用して、現在取り組んでいる「探究的な学習」をさらに充実させていく。それにより、子どもたちと地域の方々が繋がる機会にもなる。

・コミュニティ・スクールや探究的な学習を支えるために、「小中連携教育」を推進する。

1年をかけて、保護者、地域住民、学校運営協議会委員、学校活性化協議会委員の方々との議論を進めてまいりました。本日は、「子どもたちのより良い教育環境の実現」の観点から、皆様のご意見をお聴かせください。

質疑応答

参加者

説明を聞いて「統合反対」の考えが変わった。

市内では、児童数が増えている小学校もある。その地域には、宅地があり、そこに若い世代が移り住んでいる。教育だけでなく、若い世代を呼び込む政策を打っていかないと、若い世代が地域に残らないのではないか。

「宅地をつくっていかないといけない。」という市長の話を聞いたことがある。「開発」という観点で、他の部署との連携はできないものか。

事務局

このようなご意見は、他の地域からもいただいております。ただ、調整区域を外すことはハードルが高く、仮に調整区域を外したとしても、良質な農地を維持・保全していくという農業振興の視点からも考えていかないといけないと聞いています。

参加者

明和町では、農業振興地域であっても一定の区画は外すことができるなど、様々な政策を考えている。松阪市も、できないことはないと思う。他の部署を巻き込んで、スピーディーに対応してもらいたい。

現在、年長の子どもがいる。機殿では、「最初から統合予定校に入学させたい。」と考えている保護者が何人いるのか把握しているのか。

事務局

来年度の入学予定者は現在 10 人を予定していますが、それぞれの保護者のご意向を聞いたわけではありません。ただ、実際に「朝見小学校に通えないか。」という問い合わせがあり、地元の学校に通うのが原則ではあるものの、そのようなご意向に配慮する形ができないかを学校活性化協議会で検討していただきたいと考えています。

参加者

何人が朝見小学校に行くことにしたのかを公表してもらえるのか。

事務局

該当している方にとっては、早く知りたい情報であると認識しています。早急に議論をして、決定の有無に関わらず速やかに周知をしたいと考えています。

保護者同士で話し合われることも想定されるため、「〇人が朝見小学校を希望している。」と分かるのは、もう少し後にならないと分からないかもしれません。

教育長

これにはマイナス面もあるので、教育委員会で決めるのではなく、地域の中でしっかり議論をしていただきます。当然、「統合するまでは、(統合校への入学を)待つ。」となることもあると思います。

できる限り、子どもたちに寄り添った形で、弾力的に考えていきたいと思っております。

参加者

アンケートの中に、「保護者の負担を減らしてほしい。」という意見があった。「体操服を買い直さないといけないので、最初から朝見小学校へ行く。」ということになり、機殿小学校の入学者が 2 人や 3 人になるのであれば、その特例が本当に良いものかどうか分からなくなる。

教育長

揃える必要があるものについても、準備部会の中でしっかり議論をしていきます。

留守家庭やいじめなどの理由においては、通学区域の弾力化が認められていますが、学校統合に関わる部分については、丁寧に進めていきたいと思います。

参加者

今まで使っていたものがそのまま使える形であれば、保護者も安心する。そういった意味でも、準備部会を早く立ち上げて、速やかに決めいくのが良いと思う。

参加者

スクールバスは、距離で適用の有無が決まるのか。また、乗り降りする場所は、どこにするのか。

現在、不登校児童生徒が多くなっており、県教委の発表では「友人関係」が最も多い要因であった。今年度の学校交流は、全学年で行われるのか。

統合校Aでは、開校時の1年生・4年生・5年生が35人以下になる。統合当初は、きめ細かく見ていただく必要があることから、できれば2クラスにしていきたい。

学校活性化協議会の委員の任期が11月までとなっているが、大丈夫なのか。年度途中で委員が変わると、それまでの様子が分からないのではないか。

教育長

交流については、全学年で行う予定かどうかの確認をします。交流学习を通して、統合校への夢や希望が生まれてくると思うので、教育委員会もしっかり支援していきます。

クラス数については、国で決められているため、市が独自で決めることはできません。ただ、現在東部中学校区の小学校に勤務している教員を、統合校に配置していきたいと思います。

激変緩和措置として、統合前や統合直後には、教員が多く配置されるので、それを利用して学級を分割したり、TT（ティーム・ティーチング）をしたりすることができます。教員の加配について、県に要望していきます。

東部中学校区には、教育資源がたくさんあります。例えば、「福井文右衛門さん」についての探究的な学習を通して、地域を愛する気持ちも生まれてくると思います。

不登校児童生徒数は400人台まで増加しています。不登校児童生徒を増やさないために、大学の先生と協力して「スリンプルプログラム」という取組を進めています。また、3年間で1億円の予算をいただいて、退職した教員を相談員として約30人雇用しました。それにより、不登校児童生徒の学校復帰率は、全国平均が約22%（訂正：約27%）なのに対して、松阪市では約46%（訂正：約44%）となっています。また、相談員が若い教員と一緒に家庭訪問をしてもらうことで、若い教員の学びにもつながっています。ただ、約54%（訂正：約56%）の児童生徒が復帰できずにいることが課題だと捉えています。昨年度の相談件数は、延べ26,000件にも及びます。開校する統合校においても、相談員をしっかり配置していきます。

今年度は、医療機関との連携やタブレットを活用して、「不登校になるきっかけ」に対応できるようにしていきたいと思います。そのシステムを統合校にも導入していきたい考えです。

スクールバスについては、地域に応じた運営を考えていきたいと思います。機殿で実施されたアンケート結果の中に、「統廃合によって肥満が増えた。」という他市の事例が紹介されていました。私はドア

ツードアで送り迎えをすることが良いとは思いません。登下校の際に、友達と歩きながら、花の匂い、川の匂い、田を刈った匂いを知ることも大切です。ですので、皆さんとしっかり協議をした上で、地域の実情に応じたスクールバスの運営を考えていきたいと思ひます。また、通学路を広げたり改修したりする必要があれば、関係部局にしっかりと働きかけていきたいと思ひます。

教育委員会には、外部の方々を委員に含めた「教育改革推進会議」という組織がありますので、そこからも答申（報告）をいただきたいと思ひます。

事務局

学校活性化協議会委員の任期については、規約の制定日が令和5年11月1日であることから、自動的に令和6年10月31日となりました。ただ、例えばPTA会長として出てきていただいている委員の方については、PTA会長を退かれたタイミングで交代をされることは仕方のないことだと思ひます。引き継がれた委員の方が協議に入っただけのように、必要に応じて教育委員会からご説明をさせていただきたいと思ひます。

参加者

他の小学校区では、アンケートはとっているのか。

また、「準備部会での協議・調整」とあるが、時々地域に対しての説明はあるのか。

事務局

この規模でアンケートをされたのは、機殿だけとなります。

地域に対しての説明は、節目節目に『学校活性化協議会だより』を各戸配布する予定です。また、ホームページ上でも、お知らせしていきたいと思ひます。

参加者

資料最終ページに、「小中連携教育」の効果などが記載されているが、「学園方式」などの枠組みの記載は全くない。校舎が一緒であれば、毎日のように交流ができるため効果は大きいと思う。しかし、このままの統合でいくと、距離がある中での「小中連携教育」となり、余程カリキュラムをしっかりと作り込まないと、効果が期待できないのではないかと懸念している。

準備部会には、東部中学校の関係者も入れて協議検討してほしい。

教育長

今、中学校のクラブ活動を地域へ移行していく話があります。これは、都会では可能かもしれませんが、伊勢湾から奈良県境まで1時間半もかかるような松阪市では、子どもを集めることは不可能に近いと思ひます。そこで、中学校区のコミュニティ・スクール内に「運動・クラブ部会」のような部会を設置して、小学校の保護者などにご協力いただく形なども検討しています。

東部中学校区でも、中学校区コミュニティ・スクールを充実させることが「小中連携教育」につながり、もう一歩進めば「小中一貫教育」になっていくのかと思ひます。「やはりひとつの校舎がいいよね。」といった議論は、中学校区のコミュニティ・スクールで進めてもらうのが良いと思ひます。

今回の統合は、ICTを積極的に活用したり、コミュニティ・スクールを充実させたり、相談体制を充実させたりと、様々なことを先駆的に取り組む良い機会だと思ひます。そこから、「小中一貫教育」「学

園方式」が生まれてくるのだと思います。それぞれの小中学校における教育の充実を図るためには、コミュニティ・スクールを核とした「探究的な学習」と「小中連携教育」が最良の方法だと考えています。

今、授業が変わってきています。昔のような「試験に出るから覚えとけ。」ではなく、自ら課題を見つけて解決を図るような活動が増えてきています。香肌小学校では、「ジビエ料理を食べてみたい。」ということから、シェフを呼んで、地域の方々と食べるという授業がありました。このように、コミュニティ・スクールを中心に、地域を学び場とする教育が行われています。

コミュニティ・スクールを核とした新しい小中連携教育の在り方、学びの体制づくりを進めていきたいと思っています。

事務局

準備部会については、東部中学校の関係者の方々にもご協力をいただきたいと思います。

参加者

教育委員会が柔軟にやってくれるので、安心している。

統合しないといけないから統合するのではなく、統合によって良くなるように進めてほしい。大切なのは中身なので、詳細については、今後、意見を述べさせてもらうことがあるかもしれない。

教育長

ありがとうございます。しっかり胸に刻んで進めていきます。

参加者

今日は、報道機関も来ている。

児童数が増えている学校の実例を、報道機関の方に実証していただきたい。

教育長

増えてきている学校に、桃園小学校（津市）があります。急行が停まるようになったことで、爆発的に増えていったそうです。中川小学校もそうです。

教育委員会としても、児童数が増えることに繋がる手立て、「自分が受けた松阪の教育を、自分の子どもにも受けさせたい。」と思える教育について取り組んでいきたいと思っています。

参加者

教育長は教育長の立場で、議員の方々は議員の立場で、子どもが増える手立てについて、市長部局へ働きかけをしていただきたい。

教育長

本市では、学校のタブレットがLTEモデルになっています。それは、経済的な理由などから家にWi-Fi環境がない子どもに、「Wi-Fiを貸してください。」と言わせてはいけないとの思いからです。市長も「経済格差が教育格差になってはいけない。」ということで判断をしていただきました。

市長は、教育に対して理解をしていただいています。これからも、しっかり周知を図って、教育の充

実に努めてまいります。

参加者

子どもに歩かせる必要性も理解できるが、東久保町は機殿で一番遠く、これ以上通学に時間がかかると睡眠時間にも影響するため、配慮してほしい。

どうしても「吸収される」というイメージが付きまとうため、それが子どもたちに影響しないように配慮してほしい。

統合までに時間がない中での協議・調整になる。準備部会でいつ、何を協議するのか決まっているのか。

事務局

(スクールバスについては、) 全員が「学校まで来てください。」ということではありません。ただ、9つの町を全て回っていると、最初に乗った児童の乗車時間がとても長くなります。今後の準備部会で、歩く距離も程々になるように配慮しながら、停留所について柔軟に検討していきたいと思います。

現在、教育委員会で検討項目の洗い出しをしています。比較的協議に時間がかかるものから、協議できるようにスケジュールを組んでいます。配慮事項⑤「新入学児童に対する配慮について」もできるだけ早く決めて、早く周知をしないといけないと考えています。

参加者

機殿小学校はとても児童数が少なく、9町でも格差がある。現在でも、下校時に娘が一人になってしまうため、お迎えが必要となる。歩くことはとても大切だと思うが、距離や健康面だけでなく、親の負担や安全面も大切にしていきたい。

事務局

スクールバスについては、毎年、状況に合わせて調整していきます。